

は し が き

本年度の研究報告の一つとして「研究報告第百十八号」を刊行いたします。

この報告は、伝承民話を教材化する際の基礎となるものを整えることに研究のねらいを置き、当教育センターの所員が取り組んできたものをまとめたものです。

現代社会の情報渦ともいえる現象は、児童生徒に情報選択の余地を与えない勢いをもっています。児童生徒自らが必要とする情報を選択し、自分の考えを正確に相手に表現する能力の育成は国語科教育において喫緊の課題といえます。とりわけ音声言語の指導は、日常生活における言語活動の頻度から、特に重視していくことが望まれます。

このことは、新学習指導要領、指導計画の作成と内容の取扱いにおいても「音声言語に関する指導については、・・（小学校）日常生活の中に話題を求め、（中学校）広く話題を求め、・・音声言語のための教材を開発したり利用したりするなどして、指導の効果を高めるよう工夫すること。」と記しており、情報化社会における音声言語による情報の送り手としての児童生徒の育成を国語科学習指導の重点の一つとして示していることから明らかです。

この報告は、このような国語科教育の現状に鑑み、音声言語活動のための教材開発に資することを目的に編集しました。内容としては不十分な点もあろうかとは思いますが、ご一読のうえご意見ご批判をいただければ幸いです。

終わりに、本報告をまとめるに当たりご協力をいただきました上越市立城北中学校国語科の先生方に感謝の意を表するとともに、校長先生はじめ諸先生方に心よりお礼申し上げます。

平成二年三月

新潟県立教育センター所長

海 藤 是 夫